

# カルメル 霊性センターニュース



十字架の道行き(宇治カルメル会修道院)

2020年11月

369号



# 『靈性センターニュース』

## 2021 年度の郵送お申込みのご案内

靈性センターニュース 愛読者の皆様

ご愛読をありがとうございます。

2021 年度(1 月～12 月、8 月休刊のため 11 冊)の『靈性センターニュース』郵送をご希望される方は、以下の振替口座に 2,750 円程度の献金(郵送料込みで1冊 250 円の献金とすれば、11 冊で 2,750 円程度の献金)をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなくご記入ください。

お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスか e-mail で、お願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

『カルメル靈性センターニュース』編集長  
中川博道 o.c.d.

## 目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
目次	2
教会からの巻頭の言葉	3
心の泉	5
キリスト教放送局 FEBC のご案内	28
カルメル会の企画案内	29
東京	30
京都	33
通信深読お申込みのご案内	34
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	42
あとがき	43

## 【教会からの巻頭の言葉】

教皇フランシスコ

回勅『ラウダート・シー—ともに暮らす家を大切に』より

### わたしの訴え

皆が共に暮らす家を保護するという切迫した課題は、人類家族全体を一つにし、持続可能で全人的(インテグラル)な発展を追求するという関心を含意しています。というのは、物事は変わりうると、わたしたちは知っているからです。創造主は決してわたしたちをお見捨てになりません。神は決してご自身の愛する計画を放棄したり、わたしたちをお造りになったことを後悔したりなさいません。人類はまだ、皆がともに暮らす家を建設するために一緒に働く能力をもっています。わたしはここで、わたしたちが共住する家をしっかりと守るために無数のしかたで奮闘しているすべての人をたたえ、励まし、感謝したく思います。環境悪化が世界の最も貧しい人々の生活にもたらす悲惨な結果の解決策を精力的に探る人々は、格別の謝意に値します。

若者は変化を求めます。環境危機と排除された人々の苦しみとを考えずに、いったいだれがよりよい未来を建設していると主張することができるのか、彼らはいぶかしんでいるのです。(13)

そこでわたしは、自分たちの星の未来をわたしたちがどのように形づくろうとするかについての新たな対話が必要である、と執拗に訴えます。(14)





**改修中の黙想の家**

# 心の泉



宇治カルメル会修道院



## 第三卷

### 第三十二章 自分を捨て、邪欲を断つ

#### 1 主

《友よ、まったく自分を捨てないなら、完全な自由は味わえないであろう(マタイ 16・24 参照)。財産に執着する者、自分を愛する者、欲ばる者、好奇心にかられる者、落ち着かない者、イエス・キリストの光栄ではなく自分のことだけを追い求める者は、足を鎖でつながれている(フィリピ 2・21 参照)。この者たちは、砂上ろうかくに楼閣を作るが、それらはいずれも、神から生じないもので、滅び去るものである。この短い言葉をよく頭に入れなさい。すべてを手離せば、すべてを見いだす。邪欲を捨てれば平和を見いだす。この言葉をよく黙想し、実行すれば、あなたはすべてを理解するであろう。》

#### 2 子

《主よ、あなたの言われることは、一日でできる業ではなく、子どもの遊びでもありません。その簡単なみことばには、修道生活のすべての完徳が含まれています。》

#### 3 主

《子よ、霊的な完徳に達する道を知ったなら、退いてはならず、失望してはならない。むしろ、崇高な領域にのぼろうと励まさなければならない。ああ、あなたが自愛心を黙させようとし、ただ私の命令に従い、私が父としてあなたに与えたお方に服従するなら、その時あなたは私の思いにかなった者となり、あなたの生涯は、平和と歓喜に満ちるであろう。しかしあなたが、はぎ取らなければならないものはまだ多い。それを、私にすべてささげないなら、望むものを受けられない。「富むものとなるためには、精錬された私の黄金を買いなさい」(黙示録 3・18)。この黄金は、この世のものを踏み砕く天の知恵である。地上の知識を後まわしにして、空しいもので満足するのをやめなさい。》

#### 4 貴重な真珠

「人の世で貴重だと思われるものではなく、卑しいものを買いなさい」と私は先に言った。自負せず、この世で偉大なものとされるのを好まない天の知恵は、まことにこの世にあって、それは小さなもの、無価値なもの、忘れられたものである。多く人は、口だけで天の知恵をたたえるが、実際生活においては遠く離れている。しかし、それは、ほとんどの人に隠されている「貴重な真珠」(マタイ 13・46)である。》



## イエスよ、わたしの叫びを あなたの祈りとしてください



イエスよ、  
わたしの叫びを あなたの祈りとしてください  
あなたの叫びを わたしの祈りとし  
あなたを疑うことがないように・・・  
そうすれば わたしは  
あなたに似たものとなっていくでしょう

イエスよ、  
わたしにわからせてください……  
もっと あなたに注意を向け わたしたちの貧しさについての光を受け入れて  
あなたが わたしに何を待っておられるのか  
何を 受け入れなければならないのか 悟らせてください。  
今こそ 忠実に留まる時なのです。

ときとして キリストの光はわたしたちのために輝きます。  
けれども その後 光は消えてしまいます。  
その光は  
実はまだ実現されていない事柄への呼びかけなのです。  
ですから 実現されるためには忠実でなければなりません。  
光の呼びかけに 従わなければなりません。\*

教会の伝統では諸聖人の祝日にはじまる11月は、死者のために祈る月とされています。典礼では終末に関する朗読が続き、11月最後の日曜日は「王であるキリスト」の祝日・・・そして待降節にはいります。

よい待降節をお迎えください。



伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートル・ダム・ド・ヴィ

\*『いのりの道 - 幼きイエスのマリ-ユジェーヌ師とともに』 165 p (初版) 聖母文庫、聖母の騎士社

## 創造主への賛美 (36)

くのり 彰  
九里 彰

「創造主への賛美」を妨げているのは、他ならぬ私たち自身であり、それはまた「自己賛美」の誘惑であると述べたが、それは「真の謙遜」の問題でもあった。

「真の謙遜」があるということは、「偽りの謙遜」もあるということである。前者は、神の前に自分を置くことによって、わざわざ謙遜になろうと思わなくとも、またそう努力をすることもなく、神の力によって自ずと謙遜にさせられてしまうのである。後者は、前回指摘したように、謙遜と傲慢が絶えずくるくると変わる意識の状態である。人間の地平にとどまり、自分を絶えずえらい者にしようと、悪戦苦闘している。この状態の人は、謙遜になろうと努力するのだが、それがまた自分が謙遜であることを誇ろうと無意識の内に行っているため、「真の謙遜」に到ることはない。

「真の謙遜」にいる人とは、言わば大空に舞い上がり、無窮の空間を鳥のように自由に飛んでいるようなものであろうか。飛行機から地上を見ると、すべてものが小さく見えるように、地上のさまざまな事柄がマッチ箱のように些細なものに見えてくると言ってもいいかもしれない。もちろん、それはそれらの事柄を軽視したり、無視したりするというのではない。むしろ逆に、人間の地平を越えた神の地平から、それらの事柄を眺めることができるようになり、それによって、より適切な判断やよりきめ細やかな対応ができるようになるということであると思われる。したがって、「真の謙遜」に至った人は、この世に何のとりわれもこだわりもないので、スーッと鳥が空を飛ぶように、普通の人がこなす仕事を、あっという間に、それも質的にもずっと深く処理していくことができるようになるのだと思われる。神がその人を通して働かれるからである。

「真の謙遜」の大切さを、繰り返し説いたアピラの聖テレジアが、その良い例であろう。その後半生を、カルメルの改革運動に身を捧げた聖女は、17にも及ぶ改革派修道院を創立し、その激務の合間をぬって、靈性神学の分野における珠玉の作品をいくつも残して行ったのである。「偽りの謙遜」の場合は、自分に執着しているため、そうはいかない。人からの評価やこの世の価値観にとらわれ、さまざまなこだわりが生じ、ごく小さな仕事も本人にとっては実に大きな仕事となってしまうのである。こうして、仕事もはかどらず、大変な時間と労力がかかってしまうのである。

(続く)

# 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (151)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## アビラの人魚の誘惑(2)

しらべも麗しい七弦琴と  
人魚の歌によって おまえたちに願う

彼は、他の妖精たちについても語っています。彼女たちは、「その愛情や魅惑的な美しさで、恋人たちを自分の方に引き寄せる」(CB18, 4) のです。

彼はこのアビラの人魚・妖精に打ち克ったにもかかわらず、この誘惑がとても深刻で「のっぴきならぬ」ものであったことを、「何度も」繰り返すことをやめませんでした。彼の全生涯において最悪の誘惑であったかどうか、私たちに分かりません。まただれがそれを知ることができるでしょうか。

この出来事によって、大変な目に遭った聖人の人間性や、約束に忠実な人間の聖性を知ることができます。すなわち、人々の間に醜聞を引き起こすことなく、似たような状況でのトマス・アクィナスのように、火のついた燃えさしを使うことなく、彼をその魅力の中へ引き込もうとしたその少女を説得することができたのです。彼女を説得し、普通の良識にもどし、彼女の名誉—その世紀ではとても重かった名誉—にも注意を向けさせるようにしたのです。どうやら、彼女は良家の子女だったようです。

(続く)



(P. 九里訳)

## 諸 聖 人

(マタイ5：1-12a)

今日の福音の個所は、イエスが群衆を見て山に登られ、弟子たちに教えを述べられた山上の説教・山上の垂訓の箇所です。イエスが腰を下ろされ、弟子たちが近くに寄って来た光景を思い浮かべて、私たちもイエスの近くでイエスの言葉に耳を傾けましょう。

イエスは幾たびも「幸いである」と言われます。その数は何と9回にもものぼります。心の貧しい人、悲しむ人々、柔和な人々、義に飢え渴く人々、憐れみ深い人々、そして心の清い人々、平和を実現する人々、義のために迫害される人々は幸いであると述べ、天の国はその人たちのものであると言われます。

カトリック教会では11月は死者の月、そして初めの日、1日は諸聖人の祭日です。この世での旅路を終え、神の御もとへと召された人々、神のもとに迎えられた聖なる人々、諸聖人方。福音でイエスが述べられた様な人々、その様に生きた人々、聖なる生き方をなされた人々ですね。その聖なる人々を死者の月の初めに想い、祝い、私たちも彼らに倣って聖なる生活をする様にと励まされ、この世の旅路を歩んでゆきます。

私たちの生活には、苦もあれば楽もあり、楽しいこともあれば苦しいこともあります。順境にあっても、逆境にあっても、神の恵みに支えられて、雄々しく歩んでゆくことができます様に。

わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いであるとイエスは言われます。私たちがクリスチャン、キリスト者として生きる時、歩むとき、迫害されたり、悪口を言われたりすることもあるでしょう。その様な時、それを受け入れて、受け止めて歩んでゆくとき、私たちは天に大きな宝を積み、私たちがいつか天に召された時に、大きな報いとなって私たちはいただくことができるでしょう。

私たちが「今」の自分を見つめて歩む時、自分だけを見つめて歩む時、苦難の時には、希望を失ってしまうかもしれません。でもそうでなく天におられる聖人方を眺めるとき、彼らは私たちよりも前に生き、信仰のうちに歩まれたことを思い起こし、そこから力をいただいて歩んでゆくことができますでしょう。諸聖人の祈り、守り、執り成しのうちに、私たちがともに歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 年間 第32主日 (A)

(マタイ25 : 1-13)

本日のマタイの福音では、主の到来を待ち、常に準備していることが必要であると強調しています。この短い譬え話は、パレスチナの結婚の慣習に基づいて、主が戻って来るのをいつでも準備しているように教えています。ここで指しているのは、全ての人類の審判のために栄光のうちにおいでになるキリストの第二の到来のことです。

この譬え話でイエスは、その日彼が選んだ人たち、またゴールに到着する能力を与えた人たちに起こることを説明しています。マタイはこの福音で、主の再来は期待しているより遅いかもかもしれない、だから自分のランプの油を十分に準備して待つようにとキリストの共同体に教えています。この譬え話は、実際には結婚式の慣習についてですが、霊的な意味を持っていて、花婿はキリスト、花嫁は教会です。十人の花嫁付き添いおとめは教会のメンバー全体です。おとめたちが持っているランプは全てのキリスト者が持っている信仰を表しています。油は、持っている人も持っていない人もいますが、よい働きを表しています。油のないランプは、よい働きがない信仰のようなもので役に立ちません。今日の福音のメッセージは、私たち皆に関連があります。何故なら、私たちキリスト者は、花婿である「主なるキリスト」と面と向かって顔を合わせるのに必要なことのために、真剣に歩まなければならないからです。

花嫁の到着の時は、不確かで、予測できないものです。このことに注目するのは大切です。全ての重要な瞬間がいつでも用意できていて、花婿に会う準備がととのっている方法があります。キリストに従う人は、その瞬間に不用意であったり、準備しないでいたりしてはなりません。多く人は、愚かな花嫁付き添いおとめのように救いのための準備の手段を活用しそこなって、後になって自分の愚かさに気づきます。

イエス・キリストにおける兄弟姉妹の皆さん、典礼年の終わりに近づくととき、教会は福音を通して、終末、生命の終末、世界の終末について黙想するように招いています。

終末を準備する方法は、恐れや心配のうちに生きることはありません、主の到来を希望と待望のうちに生きることです。賢いおとめたちの模範にならしましょう。

(Sr. Paulina)

## 年間 第33主日

(マタイ25：14－30)

「ご主人様、五タラントンお預けになりましたが、ご覧ください。ほかに五タラントンもうけました」。

この僕は、喜んでご主人様のところに行き、自分の仕事の成果を報告しました。聞いてもらえることを長らく待ち望んでいたかのようです。きっと、預かったタラントンを用いて仕事に励んでいる時にも、ご主人様のことを思い出し、感謝し、再開の時には喜んでもらおうと励んで来たのでしょう。この僕にとって、ご主人様はかけがえのない人、預かったタラントンも大切なもの。敬意と感謝の心をもってタラントンを利用して働いたのです。

私たちのご主人様は、天の父です。父は私たちに命をはじめ、さまざまな恵みを与え、今日も生かしてくださっています。さらに、御子イエス様を与え、救いを約束してくださいました。私たちが預かったものは、お金には換算できないほど大きく、かけがえのないタラントンです。

この僕は、預かった賜物を、どういう心で受けとめ、どう有意義に使っていくかのヒントを私たちに教えてくれています。僕は、ご主人様が旅に出た後も、ご主人様のことを忘れませんでした。ご主人様が好きだったのです。だから、いつも思い出し、自分を信頼して預けてくれたものを大切にし、ご主人様に再び会うことを心待ちにしながら過ごしてきたのです。だからこそ、その賜物を倍にするほど豊かにできたのだと思います。

ご主人様のことを思い出す時、自ずとご主人様の思いや期待に応えたいと思うようになるはずです。私たちの天の父の思いは、深いいつくしみ、その期待はすべての人の救いです。とくに、この福音の続きにあるように、神は、飢えている人、渴いている人、裸の人、宿のない人、病気の人、牢にいる人たちをご自分と同一視するほど大切にされています。私たちがそういう人々を大切にする時、与えられたタラントンを豊かに増やすことになるはずです。

年間第33主日は「貧しい人のための世界祈願日」です。王であるキリストを迎える前に、王に喜んでもらえることとは何かを思い起こさせてくれる主日です。私たちの受けたタラントンを少しでも豊かにして王に喜んでもらえるように、この僕に倣って神をいつも思い出し、再会を心待ちにしながら過ごしていきましょう。

(今泉健 神父)

## 王であるキリスト (A)

(マタイ 25 : 31 - 46)

典礼暦の最後の主日である「王であるキリスト」は、1925年に教皇ピオ十一世によって制定されました。この祭日は、キリストの王職、キリストの再臨、最後の審判と世の終わりについて思い巡らすための助けとなります。

本日の福音は次のとおりです。「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。』それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。』」

主は、貧しい人、不幸な人、病人、差別された人等に特別に目を留め、私たちの信仰と善い行いに基づいて「最後の審判」が下ることを思い起こさせながら、信条、人種、社会的地位を問わず全員に注がれる御父のいつくしみとあわれみを分け与えてくださいます。そして必要なものに事欠く兄弟姉妹たちに手を差し伸べるこそ最高のあわれみであることを教えてください。私たちは、3つのいつくしみを実践できます。1つ目は、いつくしみの各種行為です。2つ目は、いつくしみの言葉です。3つ目は、祈りです。言葉や行いでいつくしみを示せない場合には、いつでも祈ることを通じて物理的に行けない場所にも足を運ぶことができます。神の御子は、一人ひとりの中におられるので、いつくしみの業によって私たちはキリストご自身に仕えているのです。コルカタのマザーテレサも、病人や苦しむ人の中にキリストを見出していました。

審判の日、私たちは善い行いを通じて神の御前で正しい者となります。私たちは、洗礼の恵みによって、神に招かれてキリスト者として生きるための新しい心と霊をいただきました。永遠のみ国へと導いてくださる王であるキリストに感謝しましょう。これこそまことの救いの贈り物です！王であるキリストを心からお祝い申し上げます！皆さまの上に神の豊かな祝福がありますように！！

(Sr. Paulina)

## 待降節 第1主日

(マルコ13:33-37)

教会の暦は新たな1年の始まりを迎えて、その歩みを歩み始めました。先週は教会の1年の終わり。主日は王たるキリストの祭日でしたね。人の子が栄光に輝いて来られ、栄光の座について、世の終わりの裁きが行われる時のことについて語られていました。世の終わり、終末を意識して、ふさわしく歩む様に励まされたのではないのでしょうか。

そして教会の新たな年がスタートしましたが、待降節は2つの期間に分かれています。第1の期間は12月16日までで、そして第2の期間は12月17日から24日まで。いずれも同じ主のご降誕を待ち望む期間ですが、聖書のみことば、特に読まれる福音を眺めてみると、イエス様の具体的な降誕に向かつてのことが語られるのは、17日以降。

それまでの第1の期間は、終末の余韻、色彩を残しつつも、約2000年前に起きた主のご降誕を待ち望み、段々そちらに比重が移ってゆく、色のグラデーションの様ですね。それは第2の期間も同様で、主のご降誕を迎えることになるのですが…。

さて今日の福音は、「気を付けて、目を覚ましていなさい。」という所から始まります。それはいつ家の主人が帰って来るのかはわからないからです。同様に世の終わりがいつ訪れるのかは私たちにはわかりません。誠実に務めを果たしながら、いつ主人が帰って来られても良い様に目を覚ましている様にしていれば、いつ世の終わりがきたとしても、それよりも先に人生の終わりが来たとしても、すなわち天に召される時がきたとしても、心配することはありませんね。むしろいつその「時」が来るのかを心待ちにしながら、毎日の生活をし、人生の歩みを進めてゆくことができるのではないのでしょうか。

イエスは弟子たちに言われました。「あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」と。このイエスの言葉からわかる様に、この言葉は弟子たちに、弟子たちだけに向けられた言葉ではありません。すべての人に向けられた言葉ですね。約2000年前の当時の人々に向けられただけでなく、その後の全ての時代の人にも、今、みことばを聴いている私たちにも向けられている言葉、語られている言葉です。

新たな年、いつ世の終わりが来ても良い様に、いつ神に召される時が来ても良い様に、準備しながら、主の到来、主のご降誕へと向かってゆくことができます様に…。

(Fr. 古川利雅)



## 糸巻き棒からペンへ(58)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

したがって、聖女は信心業を（彼女自身はロザリオを毎日唱えていたにもかかわらず、それすら）命じていませんし、祈りの方法論や決まったやり方なども指示していません。「あなたたちをより愛へと駆り立てるものを、行ないなさい」。ある人々には、靈的読書で始めることが助けになるでしょうし、他の人々には聖画や聖像を注意深く眺めることが助けになるでしょう。またある人にはひざまずいたままでいることが、他の人には座ったままでいることが助けになるのです。敬虔な射祷がある人々には役立ち、自然を眺めることが他の人々には役立つのです。聖女は、すべての人が「自分の心の状態を判断」できず、黙想に集中できないことを知っています。けれども私たちはみな愛する能力は備えていることも知っているのです。それゆえ、私たちは、父親や夫や友人に話すような自然さをもって、イエスに話すように、つまり、彼と一緒にいながら、彼に見られるがままに、自分のことを語るようにと、主張しています。重要なことは、祈りが本物であることであり、生活のことに関わらないことではなく、愛の実践と奉仕に至ることなのです（『創立史』5章参照）。

実際のところ、祈りは、修道女たちが教会の歌隊所で一緒に過ごしている時間に限られているわけではありません。聖女にはっきり分かっていることは、「主はお鍋の間にもおられます」ということであり、もし「奥まったところ」でしか主に出会うことができないなら、それはとても難しいということです。それゆえ、聖女は、時には、病気の姉妹を世話するため、あるいは他の必要な奉仕をするため、祈りの時間を放棄しなければならないとしても、心配しないように、修道女たちに求めています。なぜなら、それらの活動においても、主への愛ゆえに行なっているなら、主に仕えているからです。もっと後には、聖女が旅や種々の活動で走り回っていた時、神への奉仕から遠く離れていたにもかかわらず、神により良く奉仕しているという考えが訪れます。またイエスが、御自身があらゆる活動においてそうであったように、正しい意向と離脱によってすべてのことを行なっているならば、それで十分であり、それらをやめてはいけないと言っているように感じるのです（『靈的報告』11参照）。

（続く）

（P.九里訳）

# いのちの言葉 11月

悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる。  
(マタイ5・4)

人生の歩みの中で涙を流したことの無い人がいるでしょうか？ 悲しみのあまり涙がとめどなく流れる人を傍らにしたことの無い人がいるでしょうか？ 今日、メディアは、世界中の出来事を映像でいとも簡単に私たちの家庭にもたらししてくれます。そのため、ともするとそうした映像に私たちは慣れっこになってしまい、周りの人の多くの苦しみに対しても、影響を受けるのを恐れ心を閉ざしたり、無関心になってしまったりする危険があります。

イエスご自身も、祖国を占領され、虐げられるイスラエルの民を目にして涙を流されました<sup>1</sup>。イエスの言葉に慰めを見出し、その言葉によって心も体も癒されたいと願う大勢の病人、貧しい人、やもめ、孤児、社会から排斥された人や罪人が、イエスのもとにやってきました。

イスラエルの民に対して神の約束を果たすメシアはイエスであるとマタイ福音書は次のように語ります。

悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる。

イエスは、決して私たちの苦難や苦しみに無関心な方ではなく、それどころか、利己心からくる私たちの頑な心を治し、孤独を満たし、私たちの行いに力を与えるために自ら働かれる方です。

キアラ・ルービックは今月のみ言葉についてこう語っています。

「イエスは、いつか報われる日が来るから今は諦めなさいとはおっしゃいません。イエスの思いは、今現在にあります。完全な形ではないにしても、すでにイエスの御国はここに存在しているからです。耐えがたい死の苦しみから蘇り、死に打ち勝ったイエスの内に御国は存ります。それは又、私たちキリスト者の内に存ります。私たちの内には神がおられます。三位一体の神は私たちの内に住まいをお定めになられたからです。ですから、イエスが約束された「至福」は、もうすでに実現しているのです。たとえ苦しみは残るとしても、人生の試練を背負う新たな力が私たちには与えられているのです。その力によって私たちは、苦しんでいる他の人を助けることができるでしょう。そしていつか、その人もイエスがなされたと同じように、救いの手段として苦しみを理解し受け入れることができるようになるでしょう<sup>2</sup>」

悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる。

私たちは、お互いどうしが御父の優しい、創意に富んだ愛の証人、その道具になれるよう、イエスに学ぶことができるでしょう。イエスの教えは、人類家族を癒す新たな世界のはじまりです。そして、そこに、すべての人の涙を拭う慰めの源である神の存在がもたらされるでしょう。

レバノンに住むレナとフィリップは、世界各地のキリスト者共同体の友人たちに彼らの体験を分かち合ってくれました。「愛する皆さん、ご復活祭のカード有難うございました。私たちはみな元気です。コロナに感染しないよう注意していますが、「Parrainage Liban」<sup>3</sup>の活動があるので、いつも家にいるわけにはいきません。緊急にお金、衣服、食べ物、薬品を必要とする人たちが周りにいるからです。ほぼ2日おきに私たちは出かけます。今、Covid-19で世界中どこも大変でしょうが、レバノンではそれ以前から経済状況が深刻でした。そして、今はさらにそれが悪化しています。でも、み摂理が不足することはありません。先日も、海外にいるあるレバノン人の方から「送金しますので、4月いっぱい12世帯の家族が週3日食事が摂れるように計らって下さい」との依頼がありました。どんな時にも寛大に報いてくださる優しい神様の愛を私たちは体験しました。」

悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる。

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

1 ヨハネ 11章35 ; ルカ 19章41 参照

2 キアラ・ルービックのいのちの言葉 1981年11月

3 Parrainage Liban の活動は、1993年、レバノンで「いのちの言葉」を生きる家族のグループが、服役中の夫をもつ5人の子どもの母親を助けたことがきっかけとなり始まり、これまでレバノンの約200家族が支援を受けました。人々が経済的にも自立できるよう家庭訪問や住居探し、就活や学業を助けたりさまざまな援助をしています。現在、個人や会社約100人が活動のために経済支援を提供して下さっています。

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年9月14日

## ロスアンデスのイエスの聖テレサの手記

s de Santa

*esta*  
*de Jesús*  
de Los Andes

Nosotros ▾

Biografía

Escritos ▾

Recursos Orantes



ロスアンデスのイエスの聖テレサの帰天100周年を記念して、跣足カルメル修道会の“アンデスの聖霊”修道院は聖女の手記の直筆をウェブサイトで紹介しました。

この修道院はチリのサン フェリペ教区にあり、チリの最初の聖人であるロスアンデスのイエスの聖テレサが初誓願を立てたところです。

聖女の手記は手紙、日記、文書などに分類され、私たちはそれらの一つひとつから聖女の家族や修道生活について知り、そして聖女の神秘的な側面を思い巡らすことができます。

歴史的資料としての聖女の未編集の書き物や通信文、また聖女を知る人たちの個人的な証言も、このチリの最初の聖人の研究のための主な参考文献としてデジタル ライブラリーの内容に組み込まれています。

(訳：小宮山延子)

## 十代の福者カルロ・アクティスさんの列福式



ローマ(CNN)、  
2020年10月10日:

2006年に15歳で死去した  
「コンピューターの天才」少年、  
カルロ・アクティスさんの取次による奇跡を基に「福者(ふくしゃ)」

に列する列福(れっぷく)式が2020年10月10日、イタリアのアッシジで、教皇フランシスコから派遣された バリニ枢機卿(Cardinal Vallini) の司式にて執り行われた。いずれミレニアル世代で初の「聖人」に列せられる可能性もある。

アクティスさんは2006年、白血病のため15歳で死去した。列福式は10日にイタリアのアッシジで行われた。

バチカンによると、アクティスさんがコンピューター技術を駆使して開設した聖体の奇跡の歴史をたどるウェブサイトは、世界で1万以上の教区で利用されている。

アクティスさんの母親は生涯で3回しか礼拝に出席したことがなかったにもかかわらず、アクティスさんは幼い頃から信仰心が強かったとされる。難病に苦しんでいたブラジル人の少年を治癒させたと伝えられたことを受け、列福式が行われることになった。

アクティスさんは英ロンドンでイタリア人の両親の下に生まれ、後に一家でミラノに移転し、同地で死去した。バチカンはアクティスさんを「聖体を愛するコンピューターの天才」と形容、現代の福者としては最年少と思われるとしている。

2006年に帰天されましたが、遺体は今も腐敗を免れており、あたかも深い眠りについているようです。

(訳：小宮山延子)





2020年 秋号 No.378

\*\*\*《現代に生きる祈りの伝統》\*\*\*\*\*

キリストの御業の「模倣」から「記念」を生きる  
レデンプトリスチン修道会 立見悦子

\*\*\*\*\*

信仰生活(再)入門(11) 聖書に学ぶ祈りの道(3)  
—現代のための神のみことば、テレーズとともに①

イエスの聖テレジアと福音宣教の一考察 片山はるひ  
道の靈性(3)—道なき道を道として 松田浩一  
田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(11)  
—主のみ手は洗礼者ヨハネの上に 伊従信子

ケイティ 忘れられない人 森 みさ  
カルメル会の会則に見る

アシェーシスと修道生活(11) 九里 彰

靈的研究会講義録(9)—聖書・祈り・愛について 奥村一郎

2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」  
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に 松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」 九里 彰

司牧者のかがみ 教皇フランシスコ 今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光 大瀬高司  
—寄留者の尊厳

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を  
下記へお振込み下さい

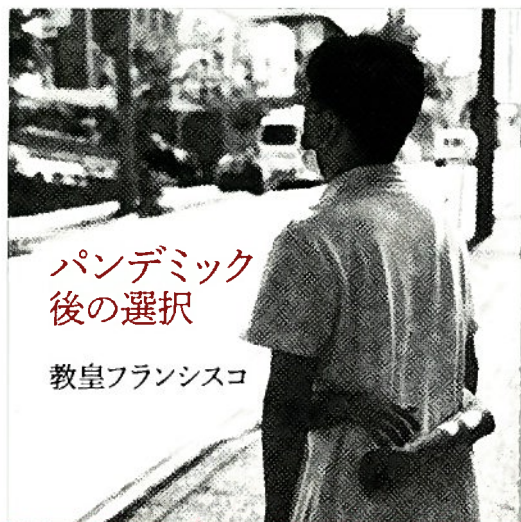
郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

# 書籍案内



## パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

## 『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

### 目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

## 新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための  
待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長





# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会  
——山本信次郎研究ノートより  
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

## その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から  
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために  
吉川まみ（環境学者）

## 継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）  
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



## 月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5  
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>

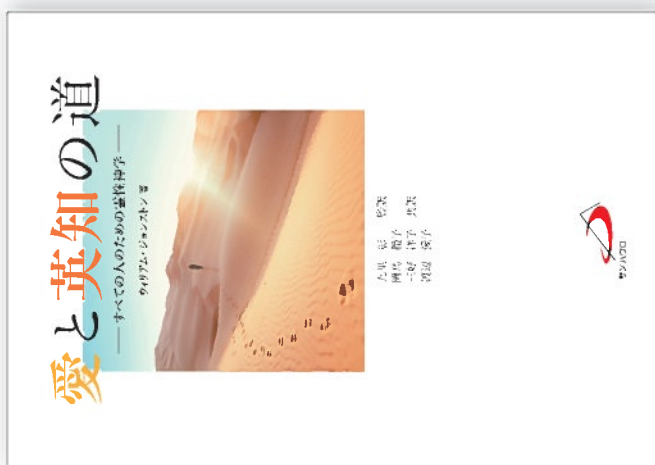
# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
  - 第1章 福音書(1)
  - 第2章 福音書(2)
  - 第3章 理性対神秘主義
  - 第4章 神秘主義と愛
  - 第5章 東方のキリスト教
  - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
  - 第7章 科学と神秘神学
  - 第8章 修徳主義とアジア
  - 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
  - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
  - 第11章 信仰の旅
  - 第12章 浄化の道
  - 第13章 暗夜
  - 第14章 (愛のうちにある)
  - 第15章 花嫁と花知
  - 第16章 一 致
  - 第17章 英知
  - 第18章 活動
  - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

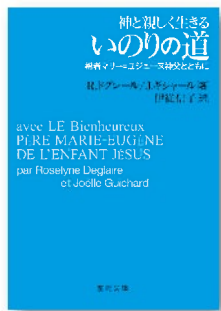
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドブレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

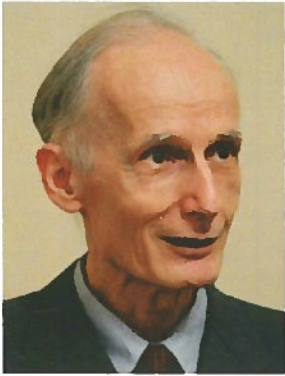
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

キリスト教放送局 **FEBEC** 2020.10~2021.3

**2020年秋冬  
番組案内**

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~  
〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

<p><b>日</b> 夜9:30~</p> <p><b>全地よ主を ほめたたえよ</b></p> <p>主日礼拝取材番組</p> <p>[第1] 日キ教会 高知旭教会 [第2] 福音ルーテル 神水教会 [第3] 日基教団 久万教会 [第4] 日基教団 中標津伝道所 [第5] 各地の教会</p>	<p>[月~金] 夜9:30~</p> <p><b>FEBEC TODAY</b> - 今日の聖書・今週の讃美歌 -</p> <p><b>恵子の郵便ポスト</b></p> <p>FEBECメインパーソナリティ 吉崎恵子</p> <p>夜9:48~</p> <p>神父さま、 こんにちは 聞いても いいですか? (再)</p> <p>百瀬文晃 カトリックイエス会司祭 お相手・吉崎恵子</p> <p>夜9:47~</p> <p><b>幸福宣言</b> - 主イエスの 山上の説教に聴く</p> <p>竹森満佐一 日本基督教団元牧師</p>	<p><b>水</b></p> <p>[第1] 夜9:37~</p> <p><b>再開</b></p> <p><b>イエスとの 対話の旅</b></p> <p>- 現代霊性神学講座 - 中川博道 カトリック・ カルメル会宇治修道院司祭</p> <p>[第1] 夜10:25~</p> <p><b>再開</b></p> <p><b>外からの「声」</b></p> <p>- FEBC HANGOUT!</p> <p>[新] [第2] 夜9:47~</p> <p><b>「時のしるし」を 求めて コロナ時代の 教会の模索</b></p> <p>[第3~4] 夜9:37~</p> <p><b>闇の中は輝く 「獄中書簡」(再)</b></p> <p>小林和夫 ホーリネス 東京聖書学院教会牧師</p>	<p><b>木</b></p> <p>夜9:47~</p> <p><b>Session</b> - イエスの Tuneに 合わせて</p> <p>早矢仕宗伯 [NCAMイエスの風] 牧師 塩谷達也 コスベル シンガー</p> <p>夜9:47~</p> <p><b>再開</b></p> <p><b>嘆きに応える 神の御言</b></p> <p>金田聖治 日キ教会 上田教会牧師</p> <p>夜10:14~</p> <p><b>主に向かって 歌おう</b></p> <p>飯靖子 日基教団 霊南坂教会 聖歌隊指揮者・オルガンリスト</p> <p>夜10:14~</p> <p><b>新</b></p> <p><b>マイ・ プレイリスト</b></p> <p>長倉崇宣</p> <p>夜10:28~</p> <p><b>FEBEC Sprout!</b> 長倉崇宣</p>	<p><b>火</b></p> <p>夜9:30~</p> <p><b>旧約聖書の ころ-詩編-</b> (再)</p> <p>雨宮慧 カトリック・東京教区司祭、 上智大学神学部名誉教授</p> <p>夜9:53~</p> <p><b>Kishikoの ひとりじゃ ないから</b></p> <p>[第1~3] 夜10:04~</p> <p><b>コーヒー ブレイク・ インタビュ</b></p> <p>インタビュア- 吉崎恵子・長倉崇宣</p> <p>[第4~5] 夜10:04~</p> <p><b>交わりのことば</b> 聖書の豊かさ</p> <p>夜10:31~</p> <p><b>黙想のとき</b> (再) 主よ、共に宿りませ 安保ふみ江</p>	<p><b>土</b></p> <p>夜9:30~</p> <p><b>Session</b> - イエスの Tuneに 合わせて</p> <p>早矢仕宗伯 [NCAMイエスの風] 牧師 塩谷達也 コスベル シンガー</p> <p>夜10:14~</p> <p><b>ザ・ストーリー</b> - 一冊の本に 込められた 思い 服部みぎわ</p> <p>夜10:28~</p> <p><b>聖書を開こう</b></p> <p>山下正雄 RCJメディア ミニストリー代表</p>	<p><b>金</b></p> <p>[第3~4] 夜10:20~</p> <p><b>Meguの CCM insight!</b></p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------

# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

### 黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

#### 【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

- ・一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

12月27日(日)～1月 5日(火)

- ・青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2021年 3月26日(金)～28日(日)



- ・ 召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士

11月 6日(金)～ 8日(日)

- ・ 特別黙想会 (初日20時～最終日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

11月13日(金)～15日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



# カルメル召命黙想会

## イエスの友となるために



日 時 : 2020年11月6日(金)16時～8日(日)16時

場 所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対 象 : 召命を考えている、独身の青年男女(40歳まで)

定 員 : 8名

費 用 : 一般 10,000円 学生 5,000円

締 切 : 2020年10月30日(金)

指 導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電 話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



## 宇治カルメル会 黙想会案内

長らく延期しておりました黙想の家の改修工事は  
9月末より行っております。  
黙想会の再開は下記より、個人・グループのお申込は  
2021年1月よりお受けできます。

**【長期間の黙想会】** 定員：12名（午後5時～午前9時）※一般の方の参加も可能です

~~2020年12月27日(日)夕食～2021年1月6日(水)朝食~~ 中川博道神父

※定員に達しましたので受付を締め切りました

2021年1月12日(火)夕食～1月21日(木)朝食 中川博道神父

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。担当が不在の場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

# 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## 真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

### 「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成  
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく  
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う  
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う  
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる  
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる  
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会  
\* \* \*
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史  
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術  
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴  
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門B	10/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
サダナⅡ	10/30(金)17:30 11/3(火)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会・町田黙想の家 (町田市本町田)	同上
広島サダナ I & アドバンス	11/20(金)9:00- 23(月)18:00 *前泊・継続宿 泊・通いも可能	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034
入門C	11/29(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ	2021年 1/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	同上
フォローアップ 新I	1/24(日) 9:30-17:00	サダナチーム	同上 *16時～ミサがあります *椅子での黙想です	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax: 042-325-7554

- ◆サダナⅠ：サダナⅠにおいて、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。
- ◆サダナⅡ：サダナⅠの土台を生かしながら、さらに奥へ、高みへと向かいます。
- ◆入門A. B. C：本来は、宿泊して営む「サダナⅠ」の内容を分割して体験していただくプログラムです。
- ◆フォローアップ…サダナⅠを終えた方。





## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

### 年内中止のお知らせ

#### 1. 2021年1月より再開予定

開催場所、木曜日 14時～16時は、変わりませんが、  
何日かは未定（場所の確保の確認が取れていません）  
12月号には載せたいと思います。

#### 2. 参加人数の制限：予約制になります。先着16名のみ。

#### 3. 連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

### A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月4日(月)

### B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食  
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）  
9月12日（土）～13日（日）  
11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

## あとがき……つぶやき……

「カルメル会は時代がピンチになると目覚める」と先輩から聞いたことがあります。

そもそも会の発祥は、中世中期の大きな転換の時と言えます。それは、気候の温暖化で作物の収穫が大幅に伸び、飛躍的な人口増加を見た時代でした。東西教会の分裂、十字軍の派遣などがあり、大修道院制の修道形態から、フランシスコ会やドミニコ会などの托鉢修道会が発祥し始めるキリスト教霊性の変革の時代です。

そのようなヨーロッパから主の生きられたパレスチナに渡った人たちが、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる」と孤軍奮闘したエリヤの活動拠点・カルメル山に庵を結び、主との出会いを根底から探し直しながらカルメル会は形成されてきました。

聖テレジアや十字架の聖ヨハネの時代も、ヨーロッパ近世の科学・技術時代の始まりです。新大陸発見、地動説の流布、世界一周航路の発見、そして、教会分裂の文字通り激動の時代。

次に、産業革命の時代、人口 10 億から 78 億近い現代へと、世界が飛躍的な変貌を遂げていく科学技術の爆発的な発展の発端の時代を生きたのが、幼いイエスの聖テレジアや三位一体の聖エリザベトです。

しかし、第二バチカン公会議は、21 世紀を人類史の新しい時代と呼び、社会の広範で急激な変動の時代が始まることを予告しました。聖ヨハネパウロ二世は、こうした時代の「時のしるし」を「霊性」と言い切られました。生ける神に聴き入りながら、どのように創造的に世界の変容を成し遂げていくかという課題の前に人類が立たされているからです。

教皇フランシスコは、今年八月の一般謁見で呼びかけています。「パンデミックの危機から脱した後、前より良くなるか悪くなるかです。これがわたしたちの選択です。考えてみようではありませんか。」。日常の生活が伴った霊性が問われている時代です。

(中川博道 o.c.d.)

